

## 点検評価表(外郭団体)

### I 団体の概要

(令和6年4月1日現在)

団体名	公益財団法人静岡県文化財団		
所在地	静岡市駿河区東静岡二丁目3番1号	設立年月日	昭和59年5月22日
代表者	理事長 中西勝則	県所管課	スポーツ・文化観光部文化政策課
設立に係る根拠法令等	一般社団法人及び一般財団法人に関する法律 公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律		
団体の沿革	昭和59年5月 財団法人静岡県文化財団設立 平成25年5月 公益財団法人に移行		
運営する施設	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ(指定管理)		
団体ホームページ	<a href="http://www.shizuoka-cf.org/">http://www.shizuoka-cf.org/</a>		

出資者	出資額(千円)	比率(%)
静岡県	900,000	88.9
県内35市町	100,000	9.9
県民募金等	1,710	0.1
期末評価益	11,085	1.1
基本財産(資本金)計	1,012,795	100.0

役職員の状況(人)			
常勤役員	1	常勤職員	40
うち県OB	1	うち県OB	1
うち県派遣	0	うち県派遣	5
非常勤役員	20	非常勤職員	3
役員計	21	職員計	43

### II 点検評価(団体の必要性)

#### 1 団体の設立目的(定款)

各種の文化及び芸術の振興を図る事業並びに国内外との交流を図る事業を行うことにより、個性豊かな県民文化の振興を図り、もって県民生活の向上と活力あふれる郷土づくりに寄与することを目的とする。

#### 2 団体が果たすべき使命・役割

静岡県文化振興基本計画により示された、本県の文化振興の目標や進める施策に従い、文化振興施策の総合的かつ効果的な推進を実施し、個性豊かで創意と活力にあふれる地域社会の実現、文化に関する活動を行う権利を県民一人ひとりが互いに尊重しあう社会の実現に寄与することを目的とする。

#### 3 団体を取り巻く環境

区分	内容
団体を取り巻く社会 経済環境の変化や新たな県民ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財団内に設置する「アーツカウンシルしずおか」には、社会の様々な課題に対応する地域団体を、文化芸術を通じて支援するとともに、政策提言等を行っていくことが求められている。</li> <li>・県民が文化芸術に触れる機会の拡充と、時代の文化芸術を担う若者の感性や創造性を育むことが求められている。</li> </ul>
行政施策と団体活動との関係(役割分担)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財団は、各種の文化振興事業を行うことにより、個性豊かな県民文化の振興と活力あふれる郷土づくりに寄与するために県が主体となって設立した団体で、静岡県文化振興基本計画では県の文化振興の具現者として中核を担うことを期待されている。</li> <li>・創造的な地域づくりに向けて、社会の様々な分野の担い手による地域の活性化や社会課題への対応を目指す創造的な取組(アートプロジェクト)を支援している。</li> <li>・財団は、県の文化と交流の拠点施設であるグランシップの管理運営を担い、平成18年度からは指定管理者としてグランシップを拠点に多彩な文化振興事業を展開している。</li> </ul>
民間企業や他の団体との関係(役割分担)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アートマネジメントの専門人材を派遣するとともに、アーティスト等のクリエイティブ人材を企業、大学、市町と結びつける活動を展開している。</li> <li>・県内公立文化施設職員のアートマネジメント能力の向上を目指した研修事業等を実施し、施設間のネットワーク構築を推進している。</li> </ul>

#### 4 事業概要

(単位:千円)

区分	事業名	事業概要	R5 決算	R6 予算
自主事業	文化芸術の振興事業 (ふじのくに地域づくり創造賞)	社会課題への対応や地域資源を活かした創造的な活動を通して、新しい価値を暮らしの中に創造していくことが期待される活動の担い手を顕彰する。	184	200
自主事業	文化芸術の振興事業 (地域文化資源の掘り起こし)	県内の文化資源の存在や価値を再発見し、文化プログラムの推進につなげるとともに、県民の共有財産として、後世に伝えていくため、書籍を発行し、配布する。	10,957	-
自主事業	文化芸術の振興事業 (中学生芸術鑑賞交通費支援)	静岡県内の中高生に多彩な文化芸術に触れてもらうため、グランシップ企画事業の鑑賞に要する交通費を全額支援する。	4,743	3,000
自主事業	グランシップ友の会事業	県民の芸術文化に対する関心を高めるとともに、グランシップ企画事業への参加を促し、チケット販売に役立てるため、「グランシップ友の会」を運営する。	2,332	1,600
県委託	文化芸術の振興事業 (子どもが文化と出会う機会創出事業(音楽))	県内に活動拠点を置くプロオーケストラ団体を活用し、県内各地で音楽プログラムやコンサートを実施する。	49,700	49,700
県委託	文化芸術の振興事業 (グランシップ企画事業)	県民の文化創造発信拠点であるグランシップを中心に、多彩な公演の招聘や、自ら企画制作する企画事業、人材育成事業、催事情報提供事業を実施する。	185,938	200,000
県委託	グランシップ管理運営事業	施設の適正な維持管理及び貸館業務等の円滑な運営を通じて、各種文化振興事業の拠点施設を運営するとともに、文化、芸術、学術及び国内外との交流のための施設の貸与事業及びその他の付帯事業を推進する。	1,098,302	1,130,347
県委託	ガストロノミーツーリズム事業	県の食文化の魅力を発信することにより、食文化による文化システムの観光誘客を図る。	-	13,000
県補助	アーツカウンシル運営事業	すべての県民をつくり手として、誰もが有する創造力が活かされる道をひらき、社会の様々な分野においてイノベーションが生まれる創造的な地域づくりに貢献するため、アートプロジェクトの支援事業、相談窓口の運営やネットワークの形成、調査研究等に取り組む。	125,109	160,000
その他	東アジア文化都市推進事業・地域連携プログラム	日本、中国、韓国の3か国の選定都市で開催する「東アジア文化都市」において、本県及び日本の多彩な文化芸術の価値を国内外に発信するとともに、観光誘客等を拡大し、経済活動の活性化を図るため、民間団体が実施する文化発信事業を助成し、関連事業を開催する。	46,387	-
合 計			1,523,652	1,557,847

## 5 事業成果指標

指標の名称(単位)	目標(上段)及び実績(下段)				目標値 (年度)
	R3	R4	R5	評価	
入館者数 (人)	700,000 222,432	700,000 562,017	700,000 572,763	B	700,000 (毎年度)
企画事業入場者数(文化支援を含む)(人)	130,000 30,800	130,000 49,776	130,000 78,270	C	130,000 (毎年度)
企画事業こども学生鑑賞者数(人)	5,500 1,157	5,500 4,233	5,500 5,045	B	5,500 (毎年度)
企画事業における満足度(%)	90 93.4	90 95.1	90 95.5	A	90 (毎年度)
貸館利用者の不満足度(スタッフ対応)(%)	1 0.01	1 0.01	1 0.01	A	1 (毎年度)
企画事業における県民参加者数(人)	2,500 596	2,500 2,133	2,500 1,984	B	2,500 (R8)
コンベンション開催件数(件)	45 42	45 38	45 46	A	45 (毎年度)
友の会個人会員数 (人)	10,000 12,477	10,000 13,926	10,000 16,593	A	10,000 (R8)
サポート企業数(協賛、協力、法人会員等、団体も含む)(社)	100 55	100 59	100 39	C	100 (R8)
サポーター人数 (人)	180 136	180 127	180 108	C	180 (毎年度)
インターンシップ受け入れ人数(人)	25 22	25 24	25 26	A	25 (毎年度)
施設稼働率数 (%)	84.0 67.4	84.0 77.3	84.0 76.7	B	84.0 (毎年度)
施設管理瑕疵に起因する事故件数 (件)	0 0	0 0	0 0	A	0 (毎年度)
催事開催支援サービス取扱件数(件)	1,800 886	1,800 1,552	1,800 1,626	B	1,800 (毎年度)

※評価 … A:目標達成 B:目標未達成 C:目標未達成(乖離大)

## 6 事業成果の総括評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
○	<p>・「アーツカウンシルしずおか」では社会の様々な分野の担い手による地域資源の活用や、社会課題に対応した創造的な取組(アートプロジェクト)を支援したほか、企業とクリエイティブ人材のマッチング事業等を実施した。</p> <p>・企画事業入場者数等の目標は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したもののコロナ禍以前の水準にまでは戻らず達成できなかったが、「グランシップトレインフェスタ」や「東アジア文化交流フェア」等の大規模イベントをはじめとする全ての予定事業を開催し、昨年度を大幅に上回る入場者数となった。</p> <p>・また、「グランシップ世界のこども劇場」や「冬のおくりもの2023」等、親子で楽しめる公演から、「東京ランド・ソロイス」や「グランシップ静岡能」等、本格的な音楽・伝統芸能公演まで、幅広いラインナップであらゆる世代が文化芸術に触れる機会を創出し、事業内容に関しては96%以上の満足度を達成している。</p> <p>・施設利用に関しても、常に利用者目線に対応することを心がけているため、貸館利用者の不満足度(スタッフ対応)は極めて低い。</p> <p>・デジタル化の急速な進展による新たな利用者ニーズに迅速に応えるため、県のLAN設備設置工事完了により大幅に強化されたネットワーク環境の運用を開始するとともに、施設予約システムの更新に合わせてウェブからの施設予約機能を拡充した。</p>	○	<p>・令和5年度は、事業成果指標の14項目中6項目が目標を達成した。目標未達成の項目でも、昨年度より目標に近づいており、状況は良くなってきている。</p> <p>・令和3年度から本格稼働している「アーツカウンシルしずおか」は創造的な地域づくりのために、他分野と積極的に連携支援などを行った。</p> <p>・こども学生鑑賞者数が大幅に伸びた背景には、コロナ禍を経て学校の課外活動の実施が戻ってきたことや、教育機関と連携し、学校のニーズに合った事業を行うなど、文化財団の積極的な活動の成果である。</p> <p>・企画事業における満足度は、ほとんどの公演、ワークショップ、展示等で高い満足度を達成し、平均としても95%以上を超える数字となっている。</p> <p>・施設稼働率については、昨年度より若干下がってはいるが、ハイブリッド学会や全館規模の学会・全国大会が開催された。</p> <p>・パーティーやケータリングなどが増えており、催事開催支援サービスの取扱件数が目標に近づいている。</p>

※判定欄 … ○:良好 △:改善を要する ×:抜本的な改革が必要

### 7 団体の必要性の評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静岡県文化振興基本計画の第5期計画において、県の文化振興の具現者として中核を担う団体に位置付けられている。</li> <li>・「劇場・音楽堂等の活性化に関する法律」等の施行により役割が増しているグランシップの第1～4期指定管理者であり、現第5期指定管理者である。</li> <li>・グランシップを中核に、多彩な事業展開で県民が文化芸術に触れる機会の創出に貢献している。</li> <li>・令和3年度に「アーツカウンシルしずおか」を開設し、地域課題等に対応した県民主体の創造的な活動への支援、人材育成・ネットワークづくり、調査研究、県・市町・文化団体等への助言、政策提言、創造的な活動による交流の拡大の支援をはじめとした各種事業を実施している。</li> <li>・住民主体のアートプロジェクト支援等を通し「一人ひとりが表現者」の実現に寄与している。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静岡県文化財団は、設置以来、グランシップの管理や文化振興事業の運営のノウハウを蓄積し、専門的スキルを備えたプロパー人材を育成し、現在では本県の文化振興の中核的団体に成長した。</li> <li>・また令和3年には、静岡県文化プログラムで培った仕組みや人材を生かし、文化財団内に「アーツカウンシルしずおか」が設置され、その活動が地域社会に広がることで、グランシップを中心とした文化拠点での文化振興と地域社会でのアートプロジェクトの両方を文化財団が担うこととなり、中核的役割を高めている。</li> <li>・グランシップを拠点として県全域を対象に文化振興事業を実施できる専門性の高い能力と幅広い文化ネットワークを有する静岡県文化財団は、静岡県文化振興基本計画の具現者として必要不可欠である。</li> </ul>

※判定欄 … ○:良好 △:改善を要する ×:抜本的な改革が必要

### 8 団体改革の進捗状況(過去の行政経営推進委員会からの意見への対応状況)

行政経営推進委員会意見 (経営健全性に係る意見を除く)	対応状況	
	団体記載	県所管課記載
他団体との役割分担を整理(H23)	○ <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域・社会の様々な分野の課題に対応する住民主体の創造的なプロジェクト(アートプロジェクト)を、アートマネジメントの専門人材が伴走支援する「アーツカウンシルしずおか」を有する県内唯一の団体である。</li> <li>・グランシップを中核に、県民が文化芸術に触れる機会の創出と拡充を、多彩な事業展開で具現化している。</li> </ul>	○ <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の文化団体等のアートプロジェクト支援を行う専門職員を配置しているアーツカウンシルしずおかは、本県唯一の組織であり、文化芸術による地域振興プログラムを支援する取組を実施した。</li> <li>・県民が文化芸術に触れる機会を創出するための企画事業を行い、本県の文化水準を上げる取組を行っている。</li> </ul>

※○:対応済 △:対応中 ×:未対応

### Ⅲ 点検評価(経営の健全性)

#### 1 財務状況

(単位:千円)

区分	R3 決算	R4 決算	R5 決算	評価	備考(特別な要因)	
健全性指標	単年度収支 (d-h)	▲ 42,402	▲ 29,469	12,946	A	
	経常損益 (a+b-e-f)	▲ 42,402	▲ 29,469	12,946	A	
	公益目的事業会計	▲ 54,349	▲ 36,591	1,483		
	収益事業等会計	11,947	7,122	11,462		
	法人会計	0	0			
剰余金	269,992	236,600	249,545	A		

※評価 … A:プラス B:特別な要因によるマイナス C:マイナス

区分	R3 決算	R4 決算	R5 決算	主な増減理由等	R6 予算	
資産の状況	資産	1,489,985	1,470,510	1,476,650		-
	流動資産	210,587	196,754	198,544	R5収益増による	-
	固定資産	1,279,398	1,273,756	1,278,106	ソフトウェア(施設予約システム)更新による増	-
	負債	187,986	212,316	214,310		-
	流動負債	149,836	164,410	161,352	未払金の減	-
	固定負債	38,150	47,906	52,958	退職給付引当金の増	-
	正味財産/純資産	1,305,921	1,258,194	1,262,340		-
	基本財産/資本金	1,035,929	1,021,594	1,012,795	基本財産の評価額の減	-
剰余金等	269,992	236,600	249,545	R5収益の充当による増	-	
運用財産	0	0	0		-	
収支の状況	事業収益 (a)	1,345,745	1,486,254	1,528,563	コロナ5類移行による施設利用料収入の増	1,550,050
	うち県支出額	1,103,099	1,139,454	1,132,432	県委託金1,007,323千円	
	(県支出額/事業収益)	82.0%	76.7%	74.1%	アーツカウンシル運営費125,109千円	(.%)
	事業外収益 (b)	7,723	7,512	8,035	雑収入+基本財産運用益	7,797
	うち基本財産運用益	6,073	6,073	6,718		6,717
	特別収益 (c)	0	0	0		-
	うち基本金取崩額	0	0	0		-
	収入計 (d=a+b+c)	1,353,468	1,493,766	1,536,598		1,557,847
	事業費用 (e)	1,395,870	1,523,235	1,513,786	事業見直し等による減	1,557,847
	うち人件費	240,363	243,513	239,362	時間外勤務削減による減	235,983
	(人件費/事業費用)	17.2%	16.0%	15.8%		(15.1%)
事業外費用 (f)	0	0	9,866	棚卸資産(冊子)廃棄損	-	
特別損失 (g)	0	0	0		-	
支出計 (h=e+f+g)	1,395,870	1,523,235	1,523,652		1,557,847	
収支差 (d-h)	▲ 42,402	▲ 29,469	12,946		-	

## 2 経営改善の取組の実施状況と評価

・令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の5類移行により施設利用率等もコロナ禍前の水準に戻りつつある中で、新たなニーズへの対応として、多様な施設を有する本館の特性を生かした催事の開催を誘致したほか、県と連携して大幅に強化したネットワーク環境の運用を開始し、新しい生活様式に即した利用形態に対応するサービスの提供の拡充を図った。

・グランシップ企画事業は、入場料収入が昨年度を大きく上回った。また、各種補助金や助成制度を積極的に活用することにより収入の確保に努めた。

・昨年度から続くエネルギー価格高騰により事業費用が増加したが、エネルギー高騰分については県に補正予算要求(43,773千円)を行い、補填することができた。

・令和6年度は、令和5年度に運用開始した人事評価制度、キャリアパス制度等を継続し、職員の生産性向上を目指す。また、インターンシップ等により高い資質を有する人材を確保するとともに、新規採用職員の定着を図るため新たにメンター制度を導入する。

## 3 赤字の要因(前年度の単年度収支、経常損益が赤字の団体のみ記載)

--

## 4 経営の健全性の総括評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効率的な運営努力を維持するとともに、収益の確保に努め健全な法人運営を継続している。</li> <li>・令和5年度は、エネルギー価格や物価の高騰を受けたが施設利用料収益が回復し、また収益確保と費用削減に積極的に取り組み、予算では96,000千円の赤字を見込んでいたのに対して、決算では12,900千円の黒字となった。</li> <li>・上記のとおり決算では3年ぶりの黒字となり、健全な運営状況を維持している。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度は、人件費や物価の高騰の影響を受けたが、施設利用料収益の回復や費用削減に取り組んだことで3年ぶりの黒字となった。</li> <li>・支出の削減や補助金等財源確保に努めつつ、特定費用準備資金として活用し、県と連携して静岡県文化振興基本計画の重点施策の推進に寄与した。</li> <li>・引き続き、健全な運営を維持されたい。</li> </ul>

※判定欄 … ○:良好 △:改善を要する ×:抜本的な改革が必要

## 5 団体改革の進捗状況(過去の行政経営推進委員会からの意見への対応状況)

行政経営推進委員会意見 (経営健全性に係るもの)	対応状況	
	団体記載	県所管課記載
資金運用益の確保(H23)	○ <ul style="list-style-type: none"> <li>資金運用規程に基づき、国債、地方債等により、安全かつ安定的な資金運用を実施している。</li> <li>また、近年は長期利率の改善傾向が見られるため、運用利率の高い地方債への買い替え等により、運用益の増額に努めている。</li> </ul>	○ <ul style="list-style-type: none"> <li>元本保証が確実な国債・地方債等により、安定した資金運営を行い、資金運用益を有効に活用している。運用利率の高い地方債に買い換えを行う等、運用益の確保に努めている。</li> </ul>

※○:対応済 △:対応中 ×:未対応

## IV 改善に向けた今後の方針

### 1 点検評価を踏まえた経営の方向性

今後の展望、中期的な経営方針(団体記載)	団体の方針に対する意見等(県所管課記載)
<p>・県の「文化振興基本計画」に基づき、令和2年度に令和3～7年度を計画期間とする「中期構想」を策定したが、財団を取り巻く環境の変化を受け、令和5年度に改訂し、後期3年間の中期方針とした。</p> <p>・県からR4～8年度までの静岡県コンベンションアーツセンターの指定管理を受け、第5期静岡県文化振興基本計画の基本目標や施策展開に従い、本財団の事業を展開していく。</p> <p>・施設の運営方法の見直しによる経費削減、利用料金改正の検討、ネーミングライツ等の新たな収入手段の検討等、文化政策課と緊密に連携し財務体質の改善を図り、単年度で収支を均衡させることを目指す。</p> <p>・新県立図書館完成を見据え、同じ東静岡地区のにぎわいと活力の中心となる施設として、今後の事業連携等の計画づくりに着手する。</p>	<p>・文化財団は、近年の社会状況の変化を受け、令和5年度に中期構想を改定し、時代に即した事業展開を図っている。</p> <p>・これまでの実績を踏まえ、静岡県コンベンションアーツセンターの指定管理者に選定した文化財団と、当該施設を拠点とし、県内全域を対象とした文化振興事業の取組を県も推進していく。</p> <p>・安定的な収入の確保ができるよう、利用料金改正の検討や新たな収入手段を考えるなど、県と連携を密にし、財務体質の改善に取り組んでいく。</p> <p>・東静岡地区ににぎわいを創出できるよう、広場を活用したイベントを誘致するなど、中心となる施設としての活躍に期待する。</p>

### 2 今年度の改善の取組

団体の取組(団体記載)	団体の取組に対する意見等(県所管課記載)
<p>・「アーツカウンシルしずおか」では、企業等との連携を積極的に進めるとともに、文化芸術を活用した地域づくりに関して政策提言していけるよう、専門性を活用していく。</p> <p>・文化事業においては、文化芸術の本質的価値を踏まえ、幅広く県民が文化芸術に触れられる環境づくりを進めるため、静岡ゆかりのアーティストの起用・新たな客層への訴求・県民との協働事業の実施・期待に応える鑑賞機会の確保を軸に文化芸術公演に積極的に取り組む。</p> <p>・特に、次世代を担う子ども達が地域格差や所得格差に関わらず文化芸術を体験する機会を提供するため、「グランシップこどものくに」や「冬のおくりもの」等、多彩で感性を育むイベントを実施するほか、県内各地の公立文化施設での出張公演や、小学校・特別支援学校等へのアウトリーチを行い、当財団だからこそ実現できる事業展開を図る。</p> <p>・グランシップの施設利用については、全館に導入した高速光回線敷設もアピールポイントとし、従来方式とリモート方式を組み合わせたハイブリッド型コンベンションの誘致を積極的に進める。</p> <p>・財団の自立に向けて基幹職員の育成を図るとともに、自主財源の確保に積極的に取り組んでいく。</p>	<p>・「アーツカウンシルしずおか」の活動については、引き続き様々な分野との連携や、文化芸術を活用した地域づくりへの提言等、専門性を積極的に活用していくことを期待している。</p> <p>・静岡にゆかりのあるアーティストを起用した公演を実施することで、県民の関心を高め、グランシップに足を運ぶきっかけづくりになることを期待する。</p> <p>・県では、子どもたちが文化芸術に触れる機会を広げ、子どもたちを感性豊かに育みたいと考えている。文化財団には、身近な場所で子どもたちのために文化芸術鑑賞・体験の機会が確保できるよう、今年度も積極的に事業展開していくことを期待する。</p> <p>・グランシップ以外の文化施設での出張公演は、中部地域の県民以外への鑑賞の場の提供につながる重要な取組であり、今年度も積極的に実施されたい。</p> <p>・施設利用については、コロナ禍も経て、デジタル化が加速している。昨年度より全館導入された高速光回線を強みに、様々な形態のコンベンションの誘致に積極的に取り組んでいただきたい。</p> <p>・財団の自立に向けて、県も積極的に関わり、一緒に課題解決に取り組んでいく。</p>

## V 組織体制及び県の関与

### 1 役職員数及び県支出額等

(単位:人、千円)

区分	R3	R4	R5	R6	備考(増減理由等)
常勤役員数	1	1	1	1	
うち県OB	1	1	1	1	
うち県派遣	0	0	0	0	
常勤職員数	41	43	42	40	
うち県OB	1	0	1	1	
うち県派遣	6	6	6	5	
県支出額	1,103,099	1,139,454	1,132,432	1,148,324	
補助金	186,915	130,140	125,109	160,000	アーツカウンシル運営費補助枠拡大
委託金	916,184	1,009,314	959,073	988,324	ガストロノミーツーリズム事業による増
その他	0	0	48,250	0	東アジア文化都市推進事業終了による減
県からの借入金	0	0	0	0	
県が債務保証等を付した債務残高	0	0	0	0	

※役職員数は各年度4月1日時点、県支出額は決算額(当該年度は予算額)、借入金・債務残高は期末残高

### 2 点検評価(団体記載)

項目	評価	評価理由
定員管理の方針等を策定し、組織体制の効率化に計画的に取り組んでいるか	○	指定管理料の積算基礎となる職員数を基本として、計画的な定員管理を行っている。 なお、役員に関しては平成29年6月に定数を見直し、評議員9人、理事11人、監事2人とした。
常勤の役員に占める県職員を必要最小限にとどめているか	○	常勤役員は公募により選考しており、県OBに限定していない。
常勤の職員に占める県からの派遣職員を必要最小限にとどめているか	○	財団総務・文化・貸館部門は、平成25年度に県からの派遣職員2人を削減し、アーツカウンシル部門も令和6年度から県からの派遣職員1人を削減しコーディネーターや事務職員には財団職員を主に配置することで、派遣職員が全職員に占める割合を12.5%に抑えている。

※ 評価欄 … ○:基準を満たしている △:基準を満たしていないが合理的理由がある ×:基準を満たしていない

### 3 点検評価(県所管課記載)

項目	評価	評価理由
県からの派遣職員について、必要性、有効性が認められるか	○	静岡県文化財団は、文化における高い専門性を有しており、静岡県文化振興基本計画の具現化に必要な団体である。県派遣職員は、県の文化政策の方向性を団体と共有し、財団の事業内容を調整するために、必要不可欠な役割を担っている。
県からの補助金等の支出や借入金等について、必要性、有効性が認められるか	○	静岡県文化財団の活動は、公益事業が大半であり、採算が見込めないが県施策として必要な文化の振興に寄与する事業を実施している。県から財団に施設管理や公演、アーツカウンシルしずおかの活動等に対する補助金等を支出することで、専門人材や事業開催のノウハウ活用し、県が直接実施する以上の県民サービスが実現できるため、必要かつ有効である。

※ 評価欄 … ○:基準を満たしている △:基準を満たしていないが合理的理由がある ×:基準を満たしていない



## VI 更なる効果的事業の実施に向けた取組

### 1 外部意見把握の手法及び意見

区分	実施	結果公表	実施内容	主な意見・評価
外部評価委員会	○	○	指定管理事業について、県による外部評価委員の事業評価を受けた。 実施時期: 令和5年9月19日 委員: 5名 公表の手法: 県HP	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新企画へのチャレンジや、コロナ禍に対応したWeb、SNS活用などでは成果が生まれている。</li> <li>・コロナでただでさえ日常的に行く機会が少ないグランシップがさらに足が遠のいた方が多い。これからは守りから攻めに転じて積極的にアピールしていただきたい。</li> <li>・企画事業の推進には、館オリジナルの企画が必要。その企画の発信により、鑑賞者が応援者となり、新規開拓も見込める。加えて、貸館事業やカフェなどの利用者の継続性にも繋がりを、さらに企画事業の質の向上ともなる。企画のさらなる創造的なラインナップに期待したい。</li> <li>・コロナ禍で気づけたことが、これからの施設運営や体制、イベントのバリエーションのボリュームアップや変革に繋がるのではと期待している。</li> </ul>
利用者アンケート	○	○	<p>グランシップ貸館利用者に施設の使いやすさ、スタッフの対応等について、また企画事業の来場者に満足度、内容等について、アンケートを実施した。</p> <p>【企画アンケートの集計】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施時期: R5年4月～R6年3月</li> <li>・対象者: 76,408人</li> <li>・回答者数: 13,680人</li> </ul> <p>【貸館アンケートの集計】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施時期: R5年4月～R6年3月</li> <li>・対象者: 5,109人</li> <li>・回答者数: 貸館: 3,690人</li> <li>・公表の手法: グランシップHP(各年度事業報告書を公表、その中に一部記載)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出演者も楽しみにしているとのこと。アマチュアビッグバンドの晴れの場として続けてください。(グランシップビッグ・バンド・ジャズ・フェスティバル)</li> <li>・能楽初体験でした。難しいところも多かったですが独特の雰囲気を感じ、世界を広げることができた。(グランシップ静岡能 能楽入門公演)</li> <li>・プロの演奏を静岡で聴けるのが本当にありがたいです。子供への安価での提供もありがとうございます。おかげで親子で良い時間を過ごすことが出来ました、シヨパンが特に素晴らしかったです(小林愛実ピアノ・リサイタル)</li> <li>・大変使用しやすかった。またお願いしたい。</li> </ul>
利用者等意見交換会	○	-	<p>グランシップ貸館利用団体等による利用者会議を開催し要望意見等を聴取した。</p> <p>実施時期: R6年3月 参加者: 4団体 結果: 非公開 理由: 参加者から意見内容を公表する旨の同意を得ていないため。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍も明け、コンサート以外にも展示会等のイベントを積極的に開催したいと考えており、会場予約等開催に対する協力体制の構築をお願いしたい。</li> <li>・広場を利用した催事の開催も検討していきたい。</li> </ul>
その他(利用者の声)	○	-	<p>館内に設置した用紙及びWEBページにより県民、利用者の要望意見等を聴取した。</p> <p>実施時期: R5年4月～R6年3月 意見数: 7件 結果: 非公開 理由: 利用者から意見内容を公表する旨の同意を得ていないため。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展望施設の眺めが綺麗で、掃除も行き届いていた。</li> <li>・子ども向けのイベントがもっと多いとよい。</li> <li>・駐車場の出口が少なく、出庫するのに非常に時間がかかったため、臨時的出口を設置する等の対応をしてほしい。</li> </ul>
その他(外部有識者)	○	-	<p>アーツカウンシルが担うべき役割、事業及び施策等について外部有識者から意見を得ることを目的に、カウンシルボードを年2回開催した。</p> <p>1回目: R5.6.27 2回目: R6.1.30</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域産業とクリエイティビティとのマッチングが特徴であり、企業への売り込みに力を入れて欲しい。</li> <li>・これまで支援してきたプロジェクトと現在の助成や支援が終わった後、どのような形でつながっていくか検討を。</li> </ul>

○:実施している/公表している    -:実施していない/公表していない

### 2 事業やサービスの見直し例

・音楽公演で実施する「リサイタルシリーズ」では、一般に加えてこどもセット券も販売した。  
・施設予約システムの更新に合わせて、予約書類のペーパーレス化やキャッシュレス支払いにより、利用者の利便性を向上させた。